

新たに利用可能な webサービスのご紹介

現在、「今日の診療WEB版」「最新看護索引web」などをトライアル中です。4月より正式契約となります。学内LANに接続されていれば、どこからでも利用可能です。是非ご活用ください。

今日の診療WEB版

※同時アクセス3台

「今日の治療指針」「治療薬マニュアル」「医学書院医学大辞典」等、13冊の図書の本文テキスト、図、写真、表を収録しており、最新の研究成果に基づく効果的な治療法の情報簡単に検索、表示できます。

今年度まではDVD版で医学分館の特定の端末のみの利用でしたが、WEB版が利用可能になりました。

【収録書籍】

- 今日の治療指針2011年版
- 今日の治療指針2010年版
- 今日の診断指針 第6版
- 今日の整形外科治療指針 第6版
- 今日の小児治療指針 第14版
- 救急マニュアル 第3版
- 臨床検査データブック 2011-2012
- 治療薬マニュアル 2011
- 新臨床内科学 第9版
- 内科診断学 第2版
- 今日の皮膚疾患治療指針 第3版
- 臨床中毒学
- 医学書院 医学大辞典 第2版



山梨大学 様
コンテンツは以下からご利用下さい。
※ご利用後はこのページに戻り、必ずログアウトしてください。

今日の診療 (利用規約)

管理者
ログイン後も、このページは消さないでください。

今日の診療 WEB版

ご利用の前に必ず利用規約を同時起動してください。
山梨大学 図書館 情報課 TEL. 97-9299

今日の診療 WEB版

検索

今日の治療指針2011年版

今日の診療 2011年版 >> 第2章 中毒性疾患 >> 中毒性疾患 最近の動向

中毒性疾患 最近の動向
中谷寿男(関西医科大学教授・救急医学科)

◆病態と診断
A. 学会での主なトピックス

第31回日本中毒学会は2009年7月に北里大学において相模会長のもとで開催された。本学会では「ネット社会と中毒」と題したシンポジウムが行われ、インターネット社会における情報伝達と中毒との関わりについて、特に当時大きな社会問題になっていた強化水素を用いた自殺メールと毒物の利用と自殺との関連について議論が交わされた。

さらに本学会においては「要請!! 向精神薬処方あり方」と題したパネルディスカッションが行われた。昨年、緊急搬送先滞留が困難な事例として、薬物中毒・精神疾患合併症併発がクロスアップされている。これらについては意識障害を伴うことや、中毒による意識障害から覚醒した後の患者の院での態度、さらに面会に来た家族とのトラブルなどでもめることが多いため、二次救急病院が中毒患者の受け入れを躊躇するケースが急増しており、そのための救急センターに搬送される薬物中毒症例が増加している。これらの原因物質は精神科医により処方された向精神薬や睡眠薬がほとんどであり、それらを適量服用した中毒事例が多い。

そのため本学会にもある通り、本パネルディスカッションではネット要請が交わされた。特に処方された向精神薬による薬物中毒の抑制に向けて、救急医からの苦言と要望というテーマで、救急医から精神科医に向けて、睡眠薬や向精神薬の処方に対する適量服用が医師事としての認識が精神科医にあるかどうかという問題、また薬剤の管理に関する問題、薬物中毒は意識障害があるものより重症なの、という重症医に関する議論、同種同加療の重症処方の問題などが指摘された。

また薬物中毒の大部分は薬による睡眠状態にあることから、胃洗浄や吸着剤投与程度の簡易な処置には、精神科医より積極的に薬物

最新看護索引Web

※同時アクセス3台

看護及び周辺領域の雑誌文献情報を収録したデータベースです。日本看護協会図書館で所蔵している国内発行の雑誌等の中から、看護に有用な文献が選択され、集録されています。

★「日本看護学会論文集」の第42回以降は、冊子版が廃止され、この「最新看護索引web」から電子版が提供されています。

山梨大学附属図書館医学分館 English

山梨大学 | 館内検索 | 本館 | 読書用 | OPAC | Atax | 予約 | 貸出

最新看護索引Web

ログイン後も、このページは消さないください。

利用後には、ログアウト

最新看護索引Web 日本看護協会図書館

簡易検索 条件検索 ヘルプ >フォルダを見る

検索語を入力して下さい。複数語を入力する場合はスペースを空けて下さい。

検索

全項目 を 新しいデータ の順に 100 件ずつ表示

お知らせ

チェックした文献のみ表示 チェックした文献のフォルダ登録 条件を変更して検索

【標題: 副標題】認知症高齢者の自然排便への取り組み,排便の関わりを通して
【著者】古川万里子 [まかくふるかわ/まりこ] [往友病院]
【雑誌名】日本看護学会論文集 老年看護 [347-8249]
【巻(号)】42
【ページ】p3-5
【発行年月】2012.11
【参考文献数】2
【分類】日本看護学会ほか
【件名(キーワード)】老人/認知症/自然排便/事例研究/
【記事区分】事例
【文献No.】1103642new
【最新看護索引Web PDF

「日本看護学会論文集」の第42回以降の全文が利用可能です。

法情報総合データベース ※同時アクセス2台

D1-Law.com

DI-Law.com 第一法規 法情報総合データベース

Log out

ご利用いただけるサービス

- 現行法規 最新検索
- 判例体系
- 知的財産権法
- リンク集

これまでの加除式の法令集・判例集に替えて、「法情報総合データベース D1-Law.com」を4月から導入します。本学では、「現行法規 [履歴検索]」、「判例体系」および「知的財産権法」が利用できます。

昨年4月から、WEB版提供中

UpToDate



UpToDate 印刷

Pharmacotherapy of allergic rhinitis

INTRODUCTION
OVERVIEW
AVAILABLE MEDICATIONS
• Intranasal glucocorticoids
• Optimal use
• Combined with decongestant sprays
• Antihistamines
• First-generation agents
• Adverse effects and safety
• Role in therapy
• Second and third-generation antihistamines
• Role in therapy and efficacy
• Adverse effects
• Antihistamine nasal sprays
• Antihistamine/decongestant combinations
• Cromolyn sodium
• Montelukast
• Adjuvant effects

Pharmacotherapy of allergic rhinitis

Authors
Richard D deShazo, MD
Stephen F Kemp, MD

Section Editor
Jonathan Corren, MD

Deputy Editor
Anna M Feldweg, MD

Disclosures
All topics are updated as new evidence becomes available and our peer review process is complete.
Literature review current through: 2 2012. | This topic last updated: 2 2, 2012.

INTRODUCTION — Allergic rhinitis may cause nasal symptoms, fatigue, and headache that can severely impact quality of life and productivity. Patients whose symptoms occur episodically are often more aware of the disability caused by allergic rhinitis, whereas patients with chronic symptoms often adapt to significant impairment over time, and may not seek medical care unless the symptoms are severe and persistent. Therefore, the physician should not overlook significant disability caused by allergic rhinitis, and should consider treatment, although the side effects of treatment may be significant. Therefore, the physician should not cause undue side effect presented in this topic and pathogenesis of allergic rhinitis.

日本語での検索が可能になりました。(本文は英語) 医学部キャンパス内のみ利用可能。

お問い合わせ先 : 山梨大学附属図書館医学分館(医学情報グループ)
内線 : 2109 MAIL : servmed@yamanashi.ac.jp